

本日3月11日は、国難と言われた未曾有の東日本大震災から6年を迎えます。
この大震災でお亡くなりになった方々に心からご冥福を申し上げ、
現在も避難を余儀なくされ、不自由な生活が続いてる方々に心からお見舞いを申し上げます。

思い起こせば、3月11日、あの日も入学手続きの真っ最中でした。埼玉でも立ってられないほどの大きな揺れを感じ、緊急放送を入れたことは、昨日のこのようです。
本校は、大震災直後から宮城県石巻市・東松島市を対象に、さまざまな支援、
交流を継続してまいりました。
その参加者数は、今年度276名、6年間で延べ1,145名となりました。

現在では、ライフスキル教育の中心的推進活動として
「何を感じ、考え、行動するか。」を、常に念頭に、教育活動の中に生かされています。
本日夜からも、第64班の一般ボランティアが現地を訪問、若い力を結集し
「ほんのわずかな」お手伝いをさせていただきます。
また、現地に参加しなくても埼玉からできる形の応援もたくさんありますので、それぞれの
立場で考えることも大切です。

ここで、是非皆さんに紹介したい本の一文があります。この夏に浦学生と交流した、
高校2年生の女子が書いた本です。震災当時は小学校5年生でした。家も故郷も一瞬のうち
に亡くしたこの著者は、心に深い傷を負いながらも「伝えることが私たちの役目」と
立ち上がり、「16歳の語り部」という本を出版しました。

それでは読ませていただきます。

たくさんの「ただいま」

防災学習の際、私が常に皆さんに伝えている言葉がある。

「防災とは、ただいまを言うことです」

「いってきます」と出かけたなら、必ず「ただいま」を言う。

それが、毎日続いてほしい。

あの日言えなかった、聞けなかった、

たくさんの「ただいま」があるのだ。

自分たちが事実を語れる最後の年代なのだ。

一文の紹介は以上です。

6年間の活動から学び、お伝えしたいことは「自分の大切な人を守る」ことです。

「埼玉には津波は来ない」などと安易な考え方ではなく、交通事故・火災をはじめとする
あらゆる災害に対する予知・予防を再確認していただけたら幸いです。

まもなく午後2時46分になります。

皆さんで黙祷を捧げたいと思います。しばらくお待ちください。

それでは「黙祷」。(30秒)

ご協力、ありがとうございました。